

Kugel hook

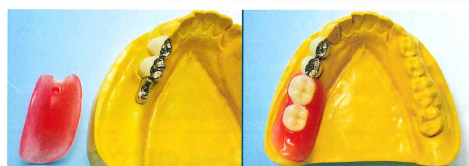
2024
期間 10/1火~10/31木

根管アタッチメント クーゲルフックアタッチメント

ご愛顧キャンペーン

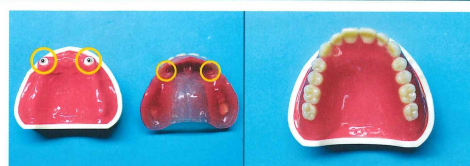
※記載価格には消費税は含まれておりません。 ※価格は予告なく変更する場合があります。

7~421|124~7 欠損のケース 3|3の根根板にクーゲルフックを直接付与したオーバーデンチャー



67欠損のケース(間接付与)

45の前装鋳造冠にクーゲルフックのメールを間接付与(写真提供 陶戸田歯研)

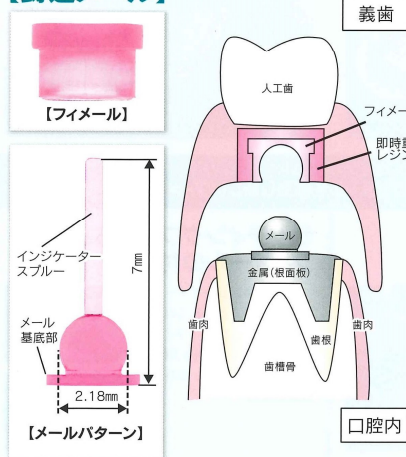


3|3にクーゲルフックを付与したオーバーデンチャー

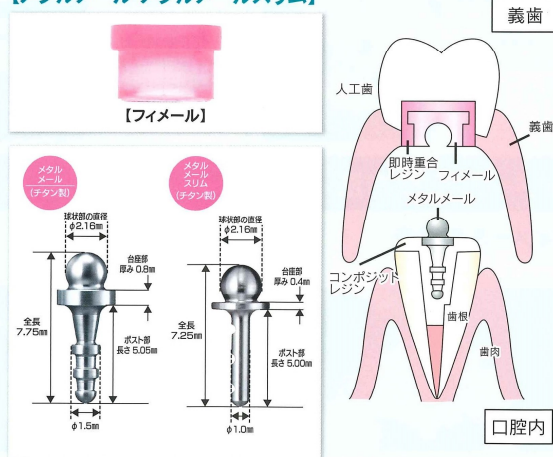


7~421|125~7 欠損のケース 3|4の根根板にクーゲルフックを付与したパーシャルデンチャー

【鋳造メール】



【メタルメール メタルメールスリム】



クーゲルフックはプラスチック製の小型で強い維持力を持つフィメールと、根根板に設置されたメールによりデンチャーを維持固定する歯科用根面アタッチメントです。

※フィメール及び人工歯の排列スペースを含め、7mm以上のクリアランスが確認できれば使用することができます。

補強構造を付与する場合は、「フィメール+補強構造+人工歯」で最小限8mmのクリアランスが必要です。

※歯根破折や動揺の大きい支台歯には適用できません。

山八歯材最新情報はホームページで... ~健康は歯から~(お問い合わせ・ご予問等もお待ちしております) <https://yamahachi-dental.co.jp/>

※ご注文・お問い合わせは、お取引ディーラー様にご用命ください。

●ご用命は...

株式会社 松本歯科商会
宮城県仙台市青葉区本町2-1-20
TEL 022-293-3588/FAX 022-293-3594



製造販売元
山八歯材工業株式会社
〒443-0105 愛知県蒲郡市西蒲町大知路54-1
TEL (0533) 57121 FAX (0533) 571764
Home Page <https://www.yamahachi-dental.co.jp/>
E-mail box@yamahachi-dental.co.jp

5307



1個入 規格のメール又はフィメールを 20% OFF
通常¥2,800のところ
¥2,240
でご提供!!

5個入 規格のメール又はフィメールを 20% OFF
通常¥12,600のところ
¥10,080
でご提供!!

スモールタイプ <フィメール>

- メール部の過度の研磨により、レギュラータイプのフィメール(赤色)では十分な維持力が得られない場合に、スモールタイプ(クリア色)をご使用下さい。
- スモールタイプの場合、メール部の径は2.14~2.15mmの範囲でご使用下さい。600g以上の維持力が得られるように設計されています。

※メールの直径が2.14~2.15mmの場合はスモールタイプをご使用下さい。

※メールの直径が2.16~2.18mmの場合はレギュラータイプをご使用下さい。



1個入 フィメールを 20% OFF
通常¥2,800のところ
¥2,240
でご提供!!



1個入 規格のメタルメール又はメタルメールスリムを 20% OFF
通常¥9,800のところ
¥7,840
でご提供!!

※従来のメタルメールよりも、ポスト径が細く前歯部・小臼歯に適したタイプです。



YAMAHACHI DENTAL MFG. CO.



メール製作～直接的付与の場合～

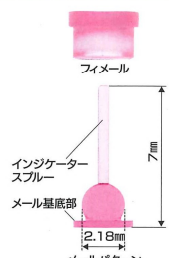
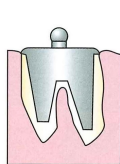
根面板ワックスパターンにメールパターンを直接付与し、一塊に鋳造形成します。

①根面板ワックスアップ時にインジケーターズブルーを目安にメールパターンの位置および方向を決定し、ワックスパターンを作製します。このとき、根面板にアンダーカットが出来ないように注意します。また、インジケーターズブルーはそのまま鋳造スブルーとしても利用できます。

②通法により、埋没、鋳造します。

※使用金属→金・銀・パラジウム合金、金合金等

③インジケーターズブルーを切断後、ロビンソンブラシ等を用い低速でゆっくり研磨します。このとき、メールの径の最小値が 2.1mm より小さくならないように注意して下さい。



有床義歯製作～印象採得～

メールを付与した補綴物を口腔内にセットした後、メール部にフィメールを装着した状態で通法により印象採得して下さい。



※写真では便宜上、模型を掲載しております。

有床義歯製作～作業模型の製作～

フィメールが印象側に付いている場合は、印象面よりフィメールを取り除いてから石膏を注入します。



有床義歯製作～模型リリース～

フィメール部を石膏等でリリースします。これは口腔内でフィメールを埋入する際、フィメール埋入スペースを確保するためです。



有床義歯製作～義歯製作～

通法どおり作業模型上にて人工歯排列、歯肉形成を行い、鋳造歯を埋没・重合します。掘り出し・研磨完成します。

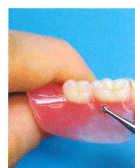


フィメールの埋入～口腔内試適・埋入スペースの調整～

まずメールにフィメールを装着していない状態で口腔内に義歯を装着し、咬合調整を行います。この時点でしっかりと咬合しても痛くないことを確認します。次に、フィメールをメール部に取り付け付けた状態でも、先ほどと同様にしっかりと咬合させても痛くない状態になるまでフィメールの埋入スペースの確保、調整を行います。

フィメールの埋入～溢出孔の付与～

義歯内面から床外部に通じる即時重合レジンを通じる溢出孔の付与を行います。



フィメールの埋入～セッティングフィルムの取付～

即時重合レジンがメール基底部側に流れることを防止するため、セッティングフィルムをメールに取り付けた後、フィメールを装着します。



※写真では便宜上、模型を掲載しております。

フィメールの埋入～即重レジンの注入～

義歯床内面のフィメール埋入スペースに即時重合レジンを通じる溢出孔を形成し、口腔内に有床義歯を装着してしっかりと咬合させた状態で固定します。



フィメールの維持力の調整

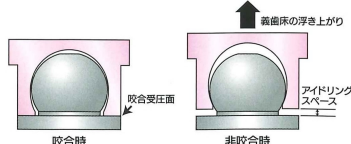
初めてフィメールをメールに装着した場合、大きな維持力を示しますが、5回程脱着を繰り返すと維持力が安定します。

【フィメールの埋入固定時の注意点とアイドリングスペースについて】

フィメールは必ず有床義歯がしっかりと咬合した状態で口腔内において直接埋入固定して下さい。

これは有床義歯咬合時における支台歯根根沈下量と粘膜部の沈下量の均衡が保たれた状態(義歯の咬合圧を粘膜が負担している状態)でフィメールを固定する事により支台歯への負担を軽減させるためです。

また、粘膜部が沈下した状態で固定されるため、粘膜に圧迫感を感じる場合があります。クーゲルホックはメールとフィメールの間にアイドリングスペースという遊び(浮き上がり空間)を設けていますので、非咬合時には粘膜の圧迫感が和らぎ、快適な装着感が得られます。



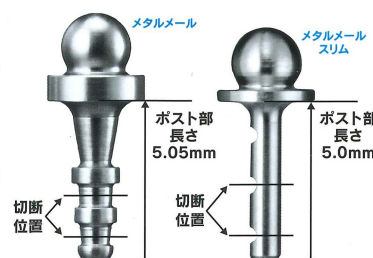
メタルメールの試適

根管形成された根管の深さが 5.05mm (メタルメールスリムの場合は 5.0mm)より短い場合は、ポストの長さの調整が必要となります。

ポストには3段のアンダーカットが設けてありますが、必ず根管寄りの1段は残します。

ニッパーで容易に切断できますが、飛散には注意してください。

ビニール袋の中で切断すると良いでしょう。



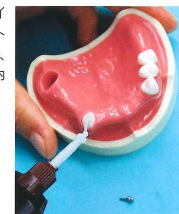
根管形成、根管形成

上顎左側犬歯部に対し、メタルメールのポストの外径より 0.5mm 程度大きい、 $\phi 2\text{mm}$ (メタルメールスリムの場合は $\phi 1.5\text{mm}$)程の根管形成を行います。形成の際、メタルメールが咬合平面に垂直に配置されるようにすることが望ましいです。



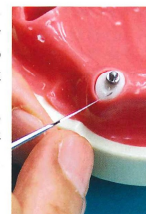
メタルメールの植立①

デュアルキュアタイプのコア用コンポジットレジン(フロータイプ)を、シリジを用いて根管内に注入します。



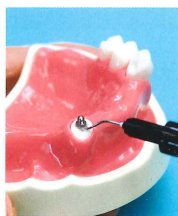
メタルメールの植立②

ポスト部にもコンポジットレジンを含み、根管内にメタルメールを挿入します。この際に、気泡の巻き込みに注意します。咬合平面に垂直にあるいは義歯の着脱方向に平行に配置・植立します。



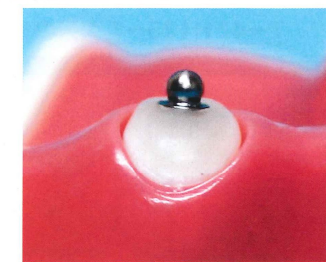
根面板部の成形①

ローフロータイプのコンポジットレジンを用いて、メタルメール周囲の段差を埋めるように乗せ、さらに、根面板外周に移行するようにします。



根面板部の成形②

根面板部の成形には探針を用いて、レジンを引き張るように成形すると良いでしょう。オーバーマージンにならないように、過不足なくドーム状に根面を覆います。重合後、メタルメールを傷つけないように、根面板の形を整え研磨します。



フィメール交換方法

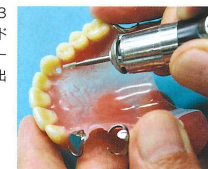
着脱を続け経年劣化し、維持力低下の際はフィメールを除去し新しいフィメールと交換して下さい。

フィメールの除去



溢出孔の形成

必要に応じて 3mm ほどのラウンドバーやフィッシャーバーを用いて溢出孔を形成します。



セッティングフィルムとフィメールの付与

常温重合レジンがメール基底部側に流れることを防止するため、セッティングフィルムをメールに取り付けた後、フィメールを装着します。



フィメールの取り込み

適量の常温重合レジンデンチャーのフィメール埋入部分に盛った後、デンチャーを口腔内に装着し、咬合状態で硬化するまで待ちます。



研磨完成

